

新年号

## JIFAS平成20年事業計画

あけましておめでとうございます。今年度の事業骨子が固まりましたので、その要旨をご紹介します。世界的に環境問題が叫ばれ、我国も魚介類の消費傾向が増大し価格高騰が続く中で、安全、安心な生産により自給率を上げることが、急務といえます。JIFASは従来積み重ねてきた研究開発技術の成果をもって、この問題に寄与することが責務と考えています。

会員の皆様はじめ、関係各位のますますのご協力、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

### ■複合循環式陸上養殖の推進～共同研究開発

#### ① システムプラントの設置場所

- ・高知大学 ノリ+アワビの複合養殖
- ・鹿児島大学 ノリ+アワビ+ナマコの複合養殖

### ■目的

高知大学平岡准教授が考案した海藻胞子集塊法を利用したアマノリとアントニオモスケイラ氏(オーストラリア)指導によるアワビの複合陸上養殖を開発。この相互関係による養殖環境の浄化と安定した成長を実現する為、養殖海水中の窒素及びリンの物質収支を検討する。この研究により、陸上養殖の収益性を高め事業として成立しうる養殖の実現に寄与する。

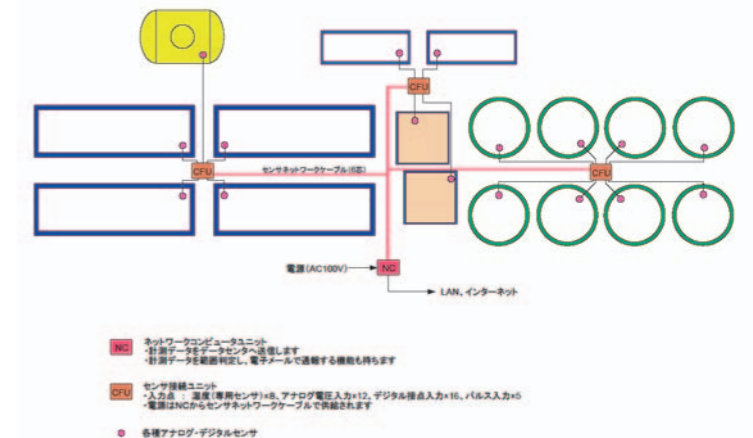
2020年には世界における魚介類の漁獲の50%を養殖に頼らなければならず、この実用化をもってわが国の食料確保に寄与する。

### ■プロジェクト推進体制

- ・(株)ジファスコポレーション～総合コンサルティング

- ・JIFASメンバー

- ・IT業界の協力による科学的データの集積  
(株)四国総合研究所(四国電力)、(株)数理技研  
データ蓄積用のパソコンをTCP/IPネットワークに接続し、データセンターとして常時稼働させる必要があります。(必要なソフトウェアは全て本パッケージに含まれています)。センサ類および特殊な信号処理回路は別途測定対象毎に必要です。



(P12に続く)

### ■市場

データ集積により、国内は、小規模養殖場200ヶ所、大規模養殖場10ヶ所建設予定。

### ■国際市場への進出

本技術の成果は、世界の養殖業界に輸出可能な画期的なものです。過去、鮭鱒を中心とする、獲る漁業の代表である北洋漁業全盛時代「水産王国」といわれたわが国ですが、自給率の低下により、極めて危険な時代を迎えています。例えば、「かまぼこ」業界においても、ジャガイモでんぷん、小麦がつなぎや増量材として使用され、魚肉の割合は全体の5～7割程度というのが現状です。「水産技術王国」として世界に進出するチャンスです。

### ■P R

- ・見学、試食会を兼ねたマスコミ、食品業界への積極的なPR活動を開始。
- ・世界を代表する機関紙「FFI」の経営者であり、トップ記者であるトムレイ氏、アワビコンサルタントの第一人者アントニオモスケイラ氏を招請して講演を開催予定しています。

## 海の森づくり推進協会

今世紀は、海藻の時代ともいわれています。去る1月7日、東京海洋大学にて開催された「NPO海の森づくり推進協会(松田恵明代表理事)」の幹事会と、昨年4月に実施された第2回こんぶサミットの模様を兼ねてご紹介します。ご案内のとおり、当会は「海藻と魚介類の複合養殖」の研究開発を進めていますので、同協会の発展を期待いたします。

- ①宇和島講演会、千葉金田漁協における種糸に関する、市原市養老川漁協の種糸に関する、新湊漁協の特別賛助会員参加、長崎県壱岐東部漁協の種糸に関する、東京湾(千葉・東京・神奈川)における個別の漁協(単協)単位にこんぶ種糸・施肥等。

- ②第3回こんぶサミットを、下記の方針で準備することとした。

2008.11-12月青森、2009.3月宇和島、2009.5月青島(山東省)、2009.7-9月函館、2009.10東京とリレー方式で計画する。

- ③他の団体との提携・協力・リンケージを積極的に進めることとする。

- ④その他、第5回海の森づくりシンポ・環境展出展・ふれあい祭り出展・昆布種糸幹旋・共同施肥試験・東京湾環境修復計画・第3回こんぶサミット・その他の提案について、具体的な支援・協賛活動計画を策定する。

